



JSIHD **n**ews**l**etter**e**r

Vol. 14

2023.May

Japanese Society of Immunotherapy for Hematological Disorders

—目次—

1. 日本血液疾患免疫療法学会理事長からのご挨拶

赤塚 美樹

日本血液疾患免疫療法学会 理事長
名古屋大学大学院医学研究科特任研究部門／分子細胞免疫学…3

2. 第14回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を終えて

高橋 義行

第14回学術集会・会長
名古屋大学大学院医学系研究科小児科学…4

3. 日本血液疾患免疫療法学会への期待

豊嶋 崇徳

日本血液疾患免疫療法学会 理事
北海道大学医学研究院・血液内科学…6

4. 自由に研究させていただける環境に感謝

竹内 裕貴

名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学…6

5. 血液疾患免疫療法の研究とアピール

久保 暢大

新潟大学大学院医歯薬総合研究科・小児科学…7

6. 倫理・利益相反委員長を拝命して思ったこと

村田 誠
COI 委員会委員長
滋賀医科大学 内科学講座 血液内科…8

7. “jsihdTV” -学会動画コンテンツ配信を始めました

尾路 祐介
あり方委員会委員長
大阪大学大学院医学系研究科・生体病態情報科学…9

8. 第 15 回学術集会開催に向けて

尾路 祐介
第 15 回学術集会・会長
大阪大学大学院医学系研究科・生体病態情報科学…11

9. 学会事務局からのお知らせ

岡 芳弘
学会事務局（大阪大学大学院医学系研究科・
癌ワクチン療法学寄附講座 内）…13

10. 編集後記

尾路 祐介 …16

日本血液疾患免疫療法学会理事長からのご挨拶

赤塚 美樹 日本血液疾患免疫療法学会 理事長

名古屋大学大学院医学研究科特任研究部門／分子細胞免疫学

ようやくコロナウイルス感染症に対する長い闘いも終わりを迎えようとしています。新年度がスタートし、会員の先生方におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

未だ少数の感染は持続しておりますが、ワクチンの普及と集団免疫の獲得が大きなゲームチェンジャーとなったことは間違いないと思います。街中や行楽地を見ますと、コロナ前の賑わいを取り戻しつつありますが、今度はその後遺症として物価高が課題となりつつあり、ある意味闘いは継続しております。

さて、目を私たち血液内科の領域に転じますと、CAR-T 細胞療法が大きな広がりを見せています。スロットの問題が普及の課題とはいえ、関連学会でもリアルワールドデータがたくさん発表され、確実に臨床に根付いてきました。BCMA CAR も2剤体制となり、ドラッグポジショニングも検討されるようになっていきます。日本血液疾患免疫療法学会としてもさらなるゲームチェンジャーとなる免疫療法の開発に鋭意取り組まねばなりません。

2023 年度の第 15 回学術集会は、尾路祐介先生（大阪大学大学院医学系研究科生体病態情報科学講座）のもと 2023 年 6 月 23 日（金）-24 日（土）に開催されます。コロナウイルス感染症の行方が見通せない時期に次回総会の開催を決める必要があります、大事を取って今回もウェブ開催となります。対面の学術集会が復活の兆しを見せており、実際に会場では久々の再会に対する感激の声があちこちで聞こえました。それと同時にウェブ開催に対する存続希望が非常に強かったのも事実です。やはり興味はあるが、どうしても参加出来ない多忙な会員が少なからず存在する現在、これほど便利で確立されたウェブのフォーマットは確実に定着するのではないのでしょうか。そして、これまでより多くの方が参加できれば、情報交換としての学会総会の機能は十分果たされるように思います。第 15 回学術集会会長の尾路先生は学術集会のテーマを「The FUTURE starts TODAY」と掲げられています。まさに免疫療法の Next について議論し合う良い機会にな

ると信じてやみません。

どうか会員の皆様はもちろん、次世代を担う若手研究者にもお声がけいただき、学術集会を盛り上げていただきますよう、どうか宜しくお願い申し上げます。最後に会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、結びの言葉とさせていただきます。

令和 5 年 4 月吉日

第 14 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を終えて

高橋 義行 第 14 回学術集会・会長

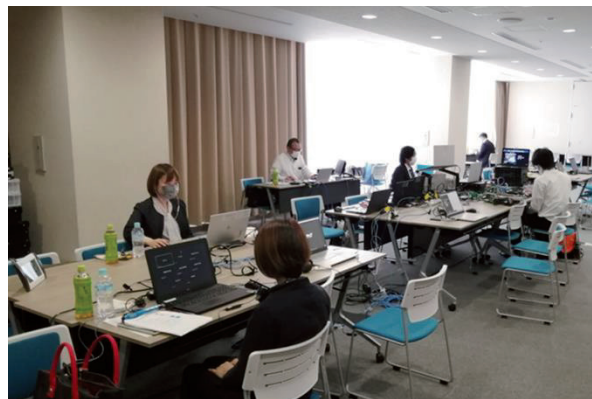
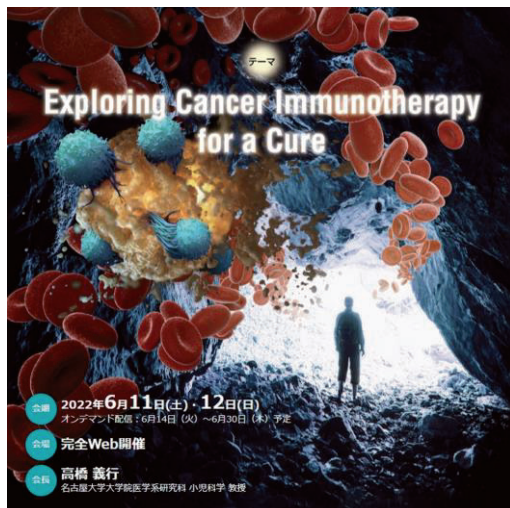
名古屋大学大学院医学系研究科小児科学

第 14 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を 2022 年 6 月 11 日（金）、12 日（土）の 2 日間にわたり開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大の中、完全 Web 開催またはハイブリッド開催を視野に入れながら準備を進めておりましたが、2021 年末より始まった第 6 波は過去最大規模の感染者数となり、それ以前はわずかであった子どもから子どもへの感染および子どもから家庭内への感染が拡大し、スタッフの中にも感染者、濃厚接触者として自宅待機をする状況で、安全に参加者の方をお迎えし、学会中に安心して議論に集中していただくには完全 Web 開催とする結論とさせていただきました。対面で行う交流を楽しみにしておられた方々には大変申し訳なく、ぎりぎりまで待っての苦渋の決断ではありましたが、招待者も含め最終 242 名の方々に参加して頂き、26 演題の発表があり、学術集会を盛況で無事に終了することができありがとうございました。

今回、“Exploring Cancer Immunotherapy for a Cure”をテーマに国内外の先生方からご発表、活発なご討議を頂きました。2018 年に本庶佑先生が PD-1 分子の発見とその後の PD-1 阻害薬の開発によりノーベル医学生理学賞を受賞され、2019 年には我が国でも CD19 を標的とする CAR-T 細胞製剤「キムリア」が承認さ

れ、これまでの標準治療に抵抗性の患者さんが、がん免疫療法によって Cure を目指せるようになりました。我々はがん免疫療法の突破口を得て、患者の Cure のためにさらなる治療法の探究者であるという思いを込めました。CAR-T 関連シンポジウムでは、海外からカナダトロント大学の平野直人先生、米国ベイラー医科大学の Leonid S. Metelitsa 先生、米国フロリダ大学の Lung-Ji Chang 先生に御講演いただきました。また、若手研究者を対象とした優秀演題賞の設定や、「若手交流会 Meet the experts」を開催し、若い研究者の参加や活躍を促進するように努めました。

本学術集会在今後の皆様のご研究のお役になりましたら、学会長としてこの上ない喜びです。本学会が今後も順調に発展し、2023 年 6 月に開催されます第 15 回学術集会も一層盛会となりますよう、心より祈念いたします。



新型コロナ感染拡大のためハイブリッド開催を断念して完全 Web 開催運営



閉会式若手優秀演題賞表彰

日本血液疾患免疫療法学会への期待

豊嶋 崇徳 日本血液疾患免疫療法学会理事

北海道大学医学研究院・血液内科学

血液疾患に特化している免疫療法は、同種造血幹細胞移植と CAR-T 細胞療法が代表です。さてこの領域はさまざまな学会がカバーしており、最大規模の学会は日本血液学会でしょう。日本血液学会総会で扱う疾患カテゴリーは11あり、移植、免疫療法が単独のカテゴリーとなります。つまり2/11です。第2の規模は日本造血・免疫細胞療法学会で、カテゴリーとしては移植がメインで CAR-T はまだサブとしての位置づけです。第3の学会は日本輸血・細胞治療学会であり、ここでは移植、CAR-T 療法に関わる、細胞採取、処理を主に取り上げます。このようにみえてくると、本学会の特徴は CAR-T などの免疫療法に特化しており、大規模学会総会で取り上げにくいような、新しく芽生えつつある研究など、将来の新しい免疫療法の開発を支援する、そのためには小回りが利いて、融通がきく学会の利点であると思います。自由な発想からの今後の発展に期待します。

自由に研究させていただける環境に感謝

竹内 裕貴

名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学

名古屋大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学大学院生の竹内裕貴と申します。この度は大変貴重な機会を与えていただき、第14回血液疾患免疫療法学会学術集会での発表をさせていただきました。私は大学院入学後、清井仁先生、寺倉精太郎先生にご指導を賜りまして CAR-T の研究に携わらせていただいております。

ます。今回の学術集会においては CD19、CD37 を target にした dual CAR の開発に関する内容について発表させていただき、こちらに関しては現在 vivo の実験を行っております。他にも CAR-T の投与後に reactivation を起こさせることはできないかということに関する研究や、当研究室オリジナルの 79A40 を共刺激ドメインにもつ CAR-T の機能的なメリットを探索する研究に携わらせていただいております。フローサイトメーターやマウスを用いた実験など大学院に入るまでは自分で実際に行ったことがなく、私にとってはどれもこれも新鮮なことでした。以前は苦手意識を持っていた実験に関しても、直接指導をいただいている寺倉先生や同じグループの先輩方に丁寧にレクチャーしていただき、今では楽しく興味をもって研究に専念させていただいております。一昨年度は大学病院にて、数例ではございますが実際の CAR-T 治療を経験させていただき、臨床で認められた事象から課題点も多く実感することができました。大学院生の中に基礎的な視点から血液疾患へアプローチできる力を身につけ、今後の私の強みにできたらと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

血液疾患免疫療法の研究とアピール

久保 暢大

新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野

私が大学院生として基礎研究を本格的に開始した際まずは新たな CAR-T 細胞療法の開発を目指しました。当時はちょうどキムリアが承認された時期で、悪性腫瘍の治療の新たな時代の流れに身を任せておりました。CAR-T 細胞療法の研究を進め少しずつ結果もでてきましたが、CAR-T 細胞療法以外の必要性も感じてきました。そんな中、当研究室で持ち上がってきたのが NK 細胞療法による研究で

す。新たなNK細胞の増幅法を開発し、より免疫細胞療法を身近にしようという研究です。すでに細胞療法の研究をしていた点と、私の名前 Nobuhiro Kubo のイニシャルがNKである点がNK細胞療法の研究にはぴったりでした。

NK細胞の増幅も可能になり、機能解析や遺伝子改変の取り組みを進めるに至りました。第14回血液疾患免疫療法学会学術集会では「刺激抗体と複合サイトカインにより増幅したヒトNK細胞の遺伝子発現および機能解析」として発表する機会をいただくと同時に、若手優秀演題賞をいただきました。高橋義行会長をはじめ本学会運営に携わった先生方や研究のご指導をいただいた共同研究者の先生方にこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。

現在は研究内容を世界に広めるために論文文化作業を進めるとともに、若手医師にもアピールし後輩を集めるためにSNSでの紹介も行っております。新潟大学小児科学教室はTwitterやインスタで一般向けを含めた情報提供を行っていますが、私は研究内容のアピールをTwitter（新潟大学小児科研究室 https://twitter.com/Niigata_ped_lab）で紹介するメンバーの1人として活動しております。主に医学生や若手医師の興味を引くことを目指していますが、先生方にも参照いただけると幸いです。

倫理・利益相反委員長を拝命して思ったこと

村田 誠 COI 委員会委員長

滋賀医科大学 内科学講座 血液内科

図らずも倫理・利益相反委員長を仰せつかった。必要に迫られ、今まで一度も読んだことのなかった他学会の指針に目を通した。書いてあることは、どれも当たり前のことだった。

研究は研究対象者の安全性や個人情報に配慮しつつ、尊厳と人権を守り、法令等を遵守して行われなければならない。そして倫理委員会の承認を受け、研究対象者の同意を得てから研究を開始すること。また利益相反については、得られた

研究成果は研究者や企業に私的利益を発生させる場合があるので、発表する際は自らの利益相反状態を開示せよと。

ヒトを対象とした医学研究の倫理的原則は、1964 年の世界医師会総会で採択されたヘルシンキ宣言にさかのぼる。しかしわが国で実際に研究倫理指針作成の流れが出てきたのは、1997 年の「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（新 GCP）」からである。思い起こせば私が医師になった 1990 年代、やたらあちらこちらで新 GCP という言葉を耳にしたことを覚えている。しかしこの省令は企業治験のみが対象だった。2000 年代に入ってようやく「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」など、さまざまな指針が整備され始めた。そして 2014 年、高血圧治療薬に関わる臨床研究論文不正事件に関連して元製薬会社員が逮捕された事件をきっかけに、研究者の利益相反に関する透明性の確保が強く求められるようになった。

本学会で定めた「倫理に関する指針」と「利益相反に関する指針」に書かれていることは、30 年前は当たり前ではなかった。

“jsihdTV” -学会動画コンテンツ配信を始めました

尾路 祐介 あり方委員会委員長

大阪大学大学院医学系研究科・生体病態情報科学

あり方委員会からのご報告です。

赤塚理事長からご指示を頂きまして、本学会の教育コンテンツ動画配信のプラットフォームである“jsihdTV”を開始しました。

これは特に若手の先生方を対象にして、本学会の関連する分野でご活躍の先生方から研究領域に関連するトピックを語っていただくものです。

第一弾は大阪大学血液腫瘍内科・保仙直毅先生による「血液疾患免疫療法研究のすすめ」です。学会ホームページからリンクしておりますので、是非ご視聴く

ださい。

PW 不要のダイジェスト版もございます。若手の先生に本学会への参加をお誘い頂くきっかけと成りますと幸いです。

今後、動画コンテンツを充実させていきたいと考えております。会員の先生方におかれましてはご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い致します。



第 15 回学術集会開催に向けて

尾路 祐介 第 15 回学術集会・会長

大阪大学大学院医学系研究科・生体病態情報科学

2023 年 6 月 23 日（金）24 日（土）の 2 日間にわたり第 15 回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を開催させていただきます。本学術集会も第 14 回に続き、ウェブ開催とさせていただきます。本学術集会ではウェブ開催の長所を積極的に活かし学術的に充実させるとともに、会員の先生方の交流についても機会を増やすべく準備を進めています。

近年悪性腫瘍に対する新たな治療法として確立され、興隆が著しい細胞免疫療法 of the さらなる発展に不可欠なテーマである免疫疲弊について、Rafi Ahmed 先生 (Emory University, USA) から特別講演「Immune Exhaustion」を頂きます。

International session では Andreas Bergthaler 先生 (Medical University of Vienna, Austria) 「Systemic immune metabolism」、Wolf H Fridman 先生 (Université Paris Cité, France) 「Tertiary Lymphoid Structures as drivers of anti-tumor immune responses」、Zwi Berneman 先生 (Antwerp University, Belgium) 「Dendritic cell vaccination in cancer」のご講演を頂きます。

シンポジウムは【1 抗体マーカー】 尾路祐介「標的抗原エпитープ抗体による免疫モニタリング」、二見淳一郎先生（岡山大）「自己抗体バイオマーカーの網羅的定量評価系による免疫プロファイリング・モニタリング技術」、島田英昭先生（東邦大）「固形癌における血清 p53 抗体の臨床病理学的意義～臨床開発を中心として～」

【2 免疫代謝・免疫老化】 鵜殿平一郎先生（岡山大）「抗腫瘍免疫による IFN γ を介した腫瘍微小環境の代謝改変と免疫回避」、濱崎洋子先生（京都大）「T 細胞の老化と再生」、萩原圭祐先生（大阪大）「進行癌に対するケトン食療法の臨床効果について：大阪大学における 10 年間の取り組み」、馬場 義裕先生（九州大）「自己免疫疾患における病原性 B 細胞」、

【3 明日の研究を拓く技術】 岡崎利彦先生（大阪大）「臨床試験用の細胞製剤

のプロセス開発及び製造から見たアカデミックの臨床試験の加速化に向けた挑戦」、飯田哲也先生（大阪大）「新規創薬モダリティ：タンパク質分解誘導薬（PROTAC）への期待とその実践例」、井上豪先生（大阪大）「クライオ電顕による構造解析を加速化する修飾グラフィングリッド (EG-grid) の開発」を企画しております。

さらに共催セミナーでも企業のご協力を頂きまして魅力的な演者をお招きしております。学会ホームページにてプログラムを是非ご覧ください。

会員の皆様の貴重なご研究を発表いただく一般演題セッションにつきましては、オンライン学会の利点を活かし、十分な討論時間を確保するとともに、同じセッションでご発表頂いた先生方を中心にオンライン上での交流の場を設けます。

学術集会のテーマを「The FUTURE starts TODAY」と致しました。近年の免疫チェックポイント阻害薬や CAR-T 細胞免疫療法の興隆により免疫療法は悪性腫瘍の治療法として確立された中で本学術集会を先生方の今後のご研究発展のひとつのきっかけにして頂きたいとの願いを込めております。

是非、多くの皆様にご参加頂き、自由闊達な情報交換・意見交換の場としていただきますよう何卒宜しくお願い致します。



学会事務局からのお知らせ

岡 芳弘

学会事務局（大阪大学大学院医学系研究科・
癌ワクチン療法学寄附講座 内）

平素より日本血液疾患免疫療法学会の発展・運営にご協力賜り誠にありがとうございます。
2022年（令和4年）度第1回理事会、評議員会、総会等での主な報告事項、ならびに、
審議事項・決定事項をお知らせ致します。

報告事項

① 物故者

該当する先生の報告はありませんでした。

② 会員入会・会費納入状況報告

会員入会・会費納入状況報告が事務局からされました。赤塚理事長から、会費未納者の
完納率を上げる努力の必要性が強調されました。

③ 令和3年度活動報告

1) Newsletter Vol.12 発刊 （編集長 高橋 聡理事）

高橋 聡編集長より Newsletter Vol.12 発刊についての報告がありました。

2) 第13回学術集会 （藤井 眞一郎会長）

令和3年6月18-19日、東京（L stay&grow 南砂町）

前回に引き続き新型コロナウイルスによるパンデミック下での開催となったため会
場とweb併用のハイブリッド形式で行ったことなどが藤井 眞一郎前大会会長から報
告されました。

④ 令和3年度会計報告

事務局から学会事務局会計報告が行われ、大嶺 謙監事より違算ないことが報告さ
れました。理事会、評議員・総会にて異議なく承認されました。

⑤ 第13回学術集会会計報告

事務局から第13回学術集会会計報告が行われ、大嶺 謙監事より違算ないことが
報告されました。理事会、評議員・総会にて異議なく承認されました。

⑥ 第14回（令和4年度）学術集会（高橋 義行会長）

高橋 義行会長から、ハイブリッド開催の予定がWeb開催になった経緯（Covid-19の感染状況を踏まえて安全性に配慮した、など）などの説明がありました。また、事前参加受付が240名に達したことなどの説明がありました。

⑦ ニュースレター編集長 交代：高橋 聡理事→尾路 祐介理事

あり方委員会委員長 交代：門脇 則光理事→尾路 祐介理事

事務局（大阪大学）代表 交代：坪井 昭博理事→岡 芳弘（名誉会員）

これらについて赤塚理事長から報告がありました。

審議事項

① 理事長選出

理事長（赤塚 美樹理事）の任期が学術集会終了日（令和4年6月12日）までであり、次期理事長の選出の必要がありました。理事会にて「赤塚 美樹理事長の再選・続行」が特段の異議なく承認され、評議員会、総会でも承認されました。

② 第15回（令和5年度）学術集会会長選出

尾路 祐介理事（大阪大学）が推薦され、承認されました。尾路 祐介理事から、開催日程（令和5年6月23日、24日）や開催様式（Web開催）についての説明がありました。

③ 第16回（令和6年度）学術集会会長選出

金子 新理事（京都大学、筑波大学）が推薦され、承認されました。

④ 新役員選出

1）女性の役員を増やす必要性が赤塚理事長から述べられました。

2）新評議員

黒田 純也 先生（京都府立医科大学）

西尾 信博 先生（名古屋大学医学部附属病院）

上記2名の先生が理事会で推薦・承認され、評議員会・総会にて承認されました。

⑤ 役員の退任・辞任

宇高 恵子監事・評議員が定年のため退任され功労会員になられること、坪井 昭博理事が辞任されること、藤原 弘評議員が辞任されることが承認されました。

⑥ 新監事選出

監事定数は2名であり、上記⑤に記載の宇高 恵子先生の監事退任を受け、新監事として清水 佳奈子評議員（理化学研究所）が赤塚理事長から推薦され、承認されました。

⑦ 収益改善に向けた取り組み

事務局から、最近の財政状況[年度末の事務局口座残額]が説明されました。

また、赤塚理事長から以下の提案・説明があり、特段の異議は出ませんでした。

- ・製薬メーカーを除く企業のバナー広告をHPに掲載する。
- ・製薬メーカーが共催し易いプロジェクトの提案。
- ・学術集会開催時余剰金を、「次回学術集会へ引継ぎ」ではなく「学会へ納入」としてはどうか。
- ・学会費の未納分を減らす方策（「学術集会開催前登録時に未納分があることの周知」や「事前参加登録時画面に未納者へ納付を促す文面」など）を考える。

⑧ 会員数を増加させる方策

赤塚理事長から以下の提案・説明があり、特段の異議は出ませんでした。

- ・学術集会内容をより魅力的にする。
 - ・本学術集会参加を血液専門医の単位認定に使用できるようにするという提案が以前にあり、日本血液学会にコンタクトして審議を依頼している。
 - ・他学会や他団体の会員に本学会・学術集会の存在を知っていただく。
 - ・参加費無料で参加した学生や研修医が会員になるような内容の充実。
- など

⑨ あり方委員会からの提案

赤塚理事長、尾路理事（あり方委員会委員長）から、以下の提案・説明があり、特段の異議は出ませんでした。

- ・今後の教育コンテンツとして、若手に免疫療法に興味を持ってもらうための動画作成を進めている。
- ・実験プロトコルなどの公開。

⑩ 学会の倫理委員会・COI 委員会の必要性について

赤塚理事長から以下の提案・説明があり、特段の異議は出ませんでした。

臨床試験などの発表が増えているため、本事業についての委員会を立ち上げる。

以上が、主な報告事項、審議・決定事項です。今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。

編集後記

尾路 祐介 JSIHD Newsletter 編集長

本学会は血液疾患の免疫療法に関する基礎および臨床研究に関わる研究者間の活発な討議の場を形成することを目的に 2006 年に第 1 回血液腫瘍免疫療法フォーラムとして始まり、これを母体として 2009 年に研究会、2016 年に学会と組織化され発展してきました。学会活動のアーカイブであります JSIHD Newsletter vol. 14 を会員の皆様にお届けします。

本号では理事長の赤塚美樹先生からご挨拶をいただき、第 14 回学術集会・会長の高橋義行先生からは学術集会のご報告、豊嶋崇徳先生からは本学会への期待、C0I 委員会委員長の村田誠先生から本学会として始まる C0I 管理についてご寄稿を頂きました。若手の先生からは第 14 回学術集会で優秀賞を受賞された竹内裕貴先生、久保暢大先生からご寄稿を頂いております。岡芳弘先生からは学会事務局からの報告を頂きました。尾路からはあり方委員会委員長として jsihdTV 開始の報告および第 15 回学術集会開催のご案内をさせて頂きました。大変お忙しい中、ご寄稿いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの扱いが緩和され、観光地は大賑わいとなり、新幹線の駅もひとであふれているようです。マスク着用が減りお互いに顔を見てお話しする機会も増えてきて、社会のさまざまな活動が人と人とのつながりを根本として成り立っていることをあらためて感じています。新型コロナウイルス感染拡大の困難の中で継続・発展させてこられた先生方のご研究が、本学会での情報交換や討論をもとに益々ご発展されますことを祈念いたします。

Newsletter の発行に際しましては事務局をはじめ多くの皆様にお世話になりました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

会 告

第15回日本血液疾患免疫療法学会学術集会を下記の日程で開催いたします。
皆様のご参加を是非とも宜しくお願い致します。

開催日時: 2023年6月23日(金)、24日(土)

開催形式: 完全 Web 開催

<https://www.jsihd2023.jp/>

編集・発行

日本血液疾患免疫療法学会
大阪大学大学院医学系研究科
癌ワクチン療法学寄附講座内
〒565-0871 吹田市山田丘 2-2
TEL&FAX 06-6879-3677
Email: jsihd@cit.med.osaka-u.ac.jp
Web: <https://www.jsihd.org/>



日本血液疾患免疫療法学会

令和5年5月